

平成26年第1回八雲町議会定例会会議録（第3号）

平成26年3月13日

○議事日程

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
日程第 2 一般質問

○出席議員（16名）

1番	佐藤智子君	2番	横田喜世志君
3番	安藤辰行君	4番	岡島敬君
5番	三澤公雄君	6番	掛村和男君
7番	田中裕君	8番	赤井睦美君
9番	牧野仁君	10番	大久保建一君
11番	宮本雅晴君	副議長	12番 千葉隆君
13番	岡田修明君		14番 黒島竹満君
15番	斎藤實君	議長	16番 能登谷正人君

○欠席議員（0名）

○出席説明員

町長	岩村克詔君	副町長	伊瀬司君
副町長		総務課長	山形広己君
兼地域振興課長	植杉俊克君	併選挙管理委員会事務局長	
兼産業課長		情報政策室長	吉田邦夫君
兼海洋深層水推進室長	萬谷俊美君	兼新幹線推進室長	
企画振興課長		会計管理者	中野勝弘君
兼行財政改革推進室長	梶原雄次君	兼会計課長	
財務課長		保健福祉課長	前小屋忠信君
兼収納対策室長	輪島光昭君		
住民生活課長	佐藤隆雄君	水産課長	横山隆久君
農林課長			
併農業委員会事務局長	藤牧直人君	建設課長	河田實君
商工観光労政課参事	半谷広志君	環境水道課長	九十田亨君
公園緑地推進室長		教育長	瀧澤誠君
落部支所長	柴田幸一君	学校教育課長	荻本和男君
教育委員長	都築享子君		
社会教育課長		体育課長	浅井敏彦君
兼図書館長	城近真君		
郷土資料館長		学校教育課参事	西田浩人君
町史編さん室長	井口啓吉君	総合病院事務長	齋藤真弘君
学校給食センター所長	千田健悦君	総合病院医事課長	五十川厚子君
監査委員	山田耕三君	消防長	板木圭司君
総合病院管理課長	鈴木敏秋君	八雲消防署管理課長	大淵聡君
総合病院建設企画課長	大泉達雄君		
八雲消防署長	桜井功一君		
八雲消防署消防課長			

【熊石総合支所・熊石教育事務所・熊石消防署・熊石国保病院】

住民サービス課長	牧茂樹君	熊石教育事務所長	池田大蔵君
熊石国保病院事務長	桂川芳信君	熊石消防署長	西田俊三君

○出席事務局職員

事務局長	中野修君	監査委員事務局次長	鈴木明美君
併監査委員事務局長		併事務局次長	
議事係長	戸田淳君		
併監査委員事務局主査			

[開議 午前10時00分]

◎ 開議宣告

- 議長（能登谷正人君） 本日の出席議員は16名です。
よって、定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。
直ちに本日の会議を開きます。
- 15番（斎藤實君） 議長。
- 議長（能登谷正人君） ちょっと待ってください。
- 15番（斎藤實君） 発言を許してください。
- 議長（能登谷正人君） 日程まで発言させてください。それから発言してください。
本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎ 日程第1 会議録署名議員の指名

- 議長（能登谷正人君） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。
本日の会議録署名議員に赤井睦美さんと大久保建一君を指名いたします。
暫時休憩いたします。

休憩 午前10時00分

開議 午前11時45分

- 議長（能登谷正人君） 再開をいたします。

◎ 議会運営委員会委員長報告

- 議長（能登谷正人君） この際、申し上げます。昨日の三澤公雄君の一般質問における発言について、昨日及び本日、議会運営委員会が開催され、協議されておりますので、議会運営委員会委員長より報告していただきます。

また理事者並びに傍聴者の方々には大変時間がかかったことをお詫びを申し上げます。
ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

それでは、委員長。

- 13番（岡田修明君） 議長、岡田。
- 議長（能登谷正人君） 委員長。
- 13番（岡田修明君） 議会運営委員会委員長としてご報告いたします。

昨日の三澤議員の一般質問において、旧熊石町時代における道南休養村にかかる質問内容がありました。その中において、誤解を招くような発言があり、その内容の確認のため、昨日の最終日程、また本日の本会議前、そして本会議後の議会運営委員会を招集し、内容を精査いたしましたので、ご報告いたします。

三澤議員においては、その質問内容の趣旨を明確にし、質問の構成上必要と判断し、旧

熊石町時代の議事録を調査し、現在の課題に対しての比較対象として引用したところであり、旧町時代の事象を検証するつもりではありませんでした。しかしながら質問の構成上、その意図は伝わらず、またその施策を否定しているかのようにとられる発言となりました。そうした中、議長において発言を撤回するよう求められました。

そのようなことから、議会運営委員会としてその部分の議事録を早急に作成し、内容の精査を行ったところ、行き過ぎた発言の部分。または誤解をもたれる発言がありましたので、協議した結果、三澤議員からその部分を削除することの申出がございましたので、お手元に配布の資料のとおり削除することとなりましたので、ここにご報告申し上げます。

議員各位のご理解をよろしくお願いいたしますとともに、理事者並びに傍聴者の皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

◎ 発言の取り消し

○議長（能登谷正人君） ただ今、議会運営委員会委員長より報告がありましたとおり、三澤公雄君から昨日の一般質問における発言について、会議規則第 62 条の規定により発言取り消し申出書が提出されております。発言取り消し申出書はお手元に配付のとおりであります。

本人から発言を求められておりますので、これを許します。

○5 番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） はい、三澤公雄君。

○5 番（三澤公雄君） 昨日の一般質問内での私の発言の中に、私が意図していたこととは違い、聞いている方に誤解を招いてしまうような不穏当な部分がありました。私の発言で不快な思いをされた皆様に心よりお詫びを申し上げ、議長に申し出いたしました発言部分の取り消しをよろしくお願い申し上げます。

○議長（能登谷正人君） お諮りいたします。三澤公雄君からの申出書のとおり、これを許可することに異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（能登谷正人君） 異議なしと認めます。よって三澤公雄君からの発言取り消しの申出を許可することに決定するとともに、関連する発言についても併せて会議録から削除いたします。

暫時休憩をいたします。再開は午後 1 時といたします。

休憩 午前 11 時 51 分

開議 午後 1 時 00 分

○議長（能登谷正人君） 休憩以前に引き続き、会議を開きます。

◎ 日程第 2 一般質問

○議長（能登谷正人君） 日程第2 一般質問を行います。

質問は、昨日に引き続きあらかじめ定められた順により、おのおの45分以内に制限してこれを許します。

それでは、横田喜世志君の質問を許します。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 早速、質問に移らせていただきます。1. 公共工事設計労務単価は労賃アップになっているかと題しまして。国土交通省による設計労務単価が昨年4月、北海道内17.5%、今年2月7.5%引き上げになりました。しかし昨年の引き上げでも賃上げにつながっていないという調査結果があります。そして、しかも道内20万人の季節労働者、建設労働者の8割近くは年収200万円以下だというアンケート調査もあります。このアンケート調査は札幌地区労連それから健康労北海道本部などによるアンケートの調査です。札幌地区労連の調査では札幌市の40施設で働く150人を対象にアンケート調査を行っております。時給最低賃金と同じ734円と答えた人が最も多いと、最高でも740円であると。

去年の札幌市議会の中で行われた、市長提案の公契約条例が議会によって否決されるということもありました。そういう中で公契約条例の必要性が今札幌でも言われています。健康労北海道本部のアンケート調査によると、国が定める賃金の基準、公共工事設計労務単価の6割前後しか払われていないと。中には5割を切る人もいるというアンケート調査になっております。この労働者のために賃金を設計労務単価並みに引き上げることは、労働者の確保と労働環境改善のために重大なことだと思います。八雲町においても指導の徹底と実態調査が必要と思われませんがどう考えておりますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） それでは横田議員のご質問にお答えをいたします。

日本の建設投資額は議員もご承知とおおり平成9年ごろから急速に減少し、平成24年度においてはピーク時に比べほぼ半減しているとのこと。同時に建設労働者の就業数は建設投資額と同様に減少をし、その結果として労働者一人一人の賃金も減少をしております。しかしながら、近年、震災復興やいわゆるアベノミクス等の効果とみられる建設事業の増大により建設労働者は不足率が増大をしてその結果、賃金の上昇が転じているところでございます。平成25年度の公共工事設計単価は前年度と比較し全国で15.1%、東日本大震災の被災地では21.0%の上昇となっております。八雲町においても当然ながら設計単価上昇を設計に反映させているところであり、賃金の上昇が建設事業への魅力の回復、景気回復に欠かせないものと認識をしております。横田議員のご指摘であります労働者の賃金の引き上げの指導と実態調査についてですが、賃金の引き上げにつきましてはこれから町内の建設業関係者の対象に平成26年度入札関係についての説明会を予定しておりますので、事業所に対して適切な賃金の支払い等含めて要請してまいりたいと考えています。また実

態調査については、実態を把握するため町内建設業関係者に対する労働者に関するアンケート調査等も盛り込んでまいりたいと考えていますので、ご理解をお願いいたします。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 26年度の八雲町発注の工事から指導を徹底していただけるということと、実態調査についてはアンケートをすることなので、アンケートに基づいて労働者の賃金とか、労働環境と言いましたけども一般に言われる保険関係ですね、これらが適切に行われるよう指導していただきたいと思います。

続いて2番目の質問に入らせていただきます。熊石地域の避難経路の見直しが必要ではと題しまして質問させていただきます。熊石地域は津波到達時間が短く高齢化率も高い中で、現状の避難経路で避難し切れるのか疑問に思っております。それで今後、避難方法の見直しが必要ではないかと私は思います。その中で避難タワーやシェルターというものが言われております。そういう避難経路の多角化というか、高齢者でもすぐ避難できるような対策をとる必要があるのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） それでは、横田議員の2つ目の質問にお答えをいたします。

熊石地域の避難経路の見直しが必要ではというご質問でございますが、一昨年北海道では太平洋側の津波浸水予測の見直しを行いました。そのことを受けて町では昨年、津波災害の防災マップの作成をしております。八雲地域の防災マップは北海道が発表した津波浸水予測をもとに作成をいたしましたが、日本海側の津波浸水予測の見直しについては現在作業中のため未だ発表されておられません。そのため熊石地域の防災マップの作成に当たりましては、平成22年に北海道が発表した津波シミュレーションに基づき作成をしたところでございます。また避難場所につきましては平成20年に熊石町内会連絡協議会と町が共同で作成をした防災マップに基づいて決めております。北海道が発表しました津波シミュレーションでは熊石地域に一番大きく影響が出るのは北海道南西沖地震で、その津波浸水予測は第一波到達が14分から17分と地震発生時短時間で到着する予測となっております。

また、津波の浸水最大遡上高は関内地域で8.3メートル、熊石漁協が5.2メートル、鮎川地区が5.3メートル、黒岩地区が2.5メートル、折戸地区は2.5メートルとなっており、熊石地域の津波の浸水予測は関内地区が一番大きく、関内から見市地区までの間で一部民家等が浸水する予測となっております。熊石地域は海岸線沿いに国道が走りそこに民家が建ち、集落が形成をされております。背後はすぐに高台となっているため、海岸線の国道から高台の道路確保は難しい地域もありますが、一部は北海道が実施をした急傾斜工事や治山施設の工事で高台に上がるための階段が設置されているところが避難路となっております。今後、北海道日本海側の津波浸水予測の見直しが発表され、熊石地域で津波浸水予測が大幅に増加する場合には避難についての見直しを検討しなければならないと考えておりますので、ご理解をよろしくをお願いいたします。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 平成20年に町内連絡会と話し合っているということで、まだ、一番新しいというか太平洋側でなく日本海側の北海道が設置する津波予測図なりが、まだ発表されてないと。それが発表されてからという言い方でしたが、今から少しでも考えておかないと、そのときにどうする、発表されてどう対応するということができないと思います。なおかつ奥尻の知り合いの議員に聞きましたら、今、奥尻あの地震後沈んだのが、今盛り上がってきていると。その状況からいって、また何年もたたないうちに起きるだろうという話も出ております。それまでに間に合うか間に合わないかという話をすると面倒くさくなりますので、今から本当に考えておかないと、そういう浸水予測図が出たときにすぐ対応できるような体制を今からとってほしいと思うのですが、いかがでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 横田議員のご質問にお答えします。横田議員も心配のとおり、多分奥尻の南西沖地震が熊石にとっても心配をされているところだと私も思います。私も当時まだ若かったですけども、南西沖地震、奥尻に地震直後に乗りこんでいって悲惨な状況と、また島に余震が来るたびにドーンという音と、ぐらぐらと揺れる恐怖感と闘いながら奥尻の島で不安な日を過ごしたことは今も鮮明に覚えていますし、当時の状況は私も把握をしております。本当に熊石地域に住んでいる方々は、この津波に対しての恐怖とまた高波越波対策が必要であろうと私も考えていますし、熊石地域はしかしながら八雲地域と違って400年以上の歴史を持ってあの地域に住んでいる方々であります。町と地域の方々と知恵を出し合って、限られた予算でありますけども、皆さんとともに災害のときには対策を練っていきたいと考えておりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

○議長（能登谷正人君） 以上で、横田喜世志君の質問は終わりました。

次に、宮本雅晴君の質問を許します。

○11番（宮本雅晴君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 宮本君。

○11番（宮本雅晴君） よろしく申し上げます。ドクターヘリについて。

道南地域の救急医療体制の充実に向けて検討課題となっていたドクターヘリは、50キロメートル離れた場所にわずか15分で到着いたします。医師が救急現場へ直行し直ちに救命治療を行う機動性は格段にすぐれております。また、東日本大震災でも全国から18機のドクターヘリが出動し患者搬送に大活躍したことは記憶に新しいところでございます。また、北海道のドクターヘリにつきましては、道央に平成17年4月、道東、道北には21年に導入され現在地3機体制となっております。利用についても、冬期間の件数が飛躍的に増加し、平成22年までには3地域で1,000件の利用となっております。その後、ドクターヘリがこの道南地域に早ければ本年冬に運行するという事は、1分1秒を争う緊急医療にとって有効で意味深いことだと思っております。（1）ドクターヘリを導入することで八雲町市街地、

落部地域、熊石地域ではどこに離着陸し、どの程度の時間で搬送できるか、また想定されているのか伺いたいです。また、2点目には24時間体制、悪天候時でも搬送可能なのか。搬送要請が重なった場合の対応はあるのかをお伺いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） それでは宮本議員のご質問にお答えをいたします。

道南ドクターヘリについては、平成24年4月に道南ドクターヘリ導入調査検討会を立ち上げ、道をはじめ18の関係市町、医師会、消防、医療機関などによる5回にわたる幹事会で検討され、平成25年7月に開催された検討会において導入の合意を得たところであります。今後については運行調査委員会の第1回目の会議を今月下旬に開催し、運行に必要な事項について協議をすることとなっております。ドクターヘリは急病やケガなどで重大な傷病と判断された場合に函館空港にある格納庫内に待機している、医師・看護師が搭乗し、医療器材等を整備しているドクターヘリの出動を要請することとなります。交通事故等の救急現場へ出動する救急現場出動、及び一時的に総合病院に搬送された傷病者を基地病院に搬送する救急外来搬送、医学的な管理を継続しながら迅速に専門医師機関へ搬送する施設間搬送の出動要請区分に分かれており、消防本部や医師の判断により基地病院である市立函館病院などへ搬送してもらうこととなります。ドクターヘリの飛行時間については函館空港から奥尻空港までの25分程度の飛行ですので、八雲地域の市街地までの距離と熊石地域の総合支所までの距離は直線で概ね70キロの距離でございますので、気象状況にもよりますが15分から20分程度で到着できるものと考えております。また落部地域につきましては空港までの距離が10キロほど近くなっておりますので飛行時間も短くなるものと考えています。また離着陸場につきましては、八雲地域は大新スポーツ公園駐車場、熊石地域では熊石漁協の敷地内、落部地域は落部多目的グラウンドと考えておりますが、その場所が適切であるかどうかの判断は運航会社、またヘリコプターの機種が決定した後に現地調査などにより決定されることとなっております。ヘリコプターの運行につきましては、基幹病院の勤務開始時間から日没までとしているところが多いようですが、今後、調整委員会で協議されることとなります。さらに霧や雨などで、ヘリコプターの見通しが悪いときや、強風などの悪天候時には運行はできず、また、夜間の飛行もできないこととなっております。搬送患者が重なった場合の対応につきましては、患者の状態に合わせ緊急性に応じ市立函館病院の救命救急医が判断することとなっております。ドクターヘリが対応できない場合は消防の判断により北海道の防災ヘリを要請することも可能と考えております。

以上でご理解をよろしくお願いたします。

○11番（宮本雅晴君） はい、議長。

○議長（能登谷正人君） 宮本君。

○11番（宮本雅晴君） 今お伺いしましたけれども、函館から八雲まで15分から20分かかると。また熊石についても20分ぐらいでないかということで、そういう部分でどのような体制でどのような訓練をしているのか、また、これから今後取り組んでいくのか。

また、救急車の依頼、現地に行ってお医者さんが診察してこれは救急搬送しなければならない、ドクターヘリを呼ばなくてはならないと、そういう判断をする基準というか、そういう手短な時間帯でどのような流れで函病までドクターヘリで連れていくのかについて手順を教えてもらえればと思います。

○保健福祉課長（前小屋忠信君） 保健福祉課長。

○議長（能登谷正人君） 課長。

○保健福祉課長（前小屋忠信君） 宮本議員より質問のあった訓練体制、またどのような形でドクターヘリを要請するかということだと思いますども、それについては、まだはっきりした部分決定しておりません。これから調査委員会が今月末ですけれども開催されまして、何回かの会合そして町も入っていますけれども、当然消防また病院の方も調整委員会の方に入る形になりますので、そこら辺で具体的な搬送方法などの部分、また訓練についても決定していくものと考えてございます。

○11番（宮本雅晴君） はい。

○議長（能登谷正人君） 宮本君。

○11番（宮本雅晴君） 続きまして緊急外来搬送と施設搬送ということを先ほど町長が詳しく述べていますけれども、これについてももう少し具体的にお願いしたいなと思います。

○保健福祉課長（前小屋忠信君） 保健福祉課長。

○議長（能登谷正人君） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（前小屋忠信君） 救急外来搬送でございますけれども、あまりあつてはよろしくないですが事故のあった場合ですね、通常八雲であれば総合病院の方に一旦収容されます。その段階で八雲総合病院では処理できないという言い方はおかしいですが、そういう場合にヘリを要請すると。また施設間搬送というのは一般的には転送と言われる病院に入院している方が、救急でどうしても違う病院にとそういう場合も搬送は可能と聞いております。

○11番（宮本雅晴君） はい。

○議長（能登谷正人君） 宮本君。

○11番（宮本雅晴君） 平成17年に道央圏に初めてドクターヘリが入ったときですけれども、八雲町栄町に住んでいるKさんが腹部大動脈破裂のため総合病院に入って、間もなく搬送されたのですけれども、そのときはドクターヘリが飛び北大病院に搬送されたという。手術が大成功して今も現在元気に暮らせるという実例もありますので、本当にそういう部分しっかりと、今後も慎重に慎重を期してその練習方法、訓練方法とか、どのように順調に進むかという部分をしっかりと検討して、また訓練して行ってもらいたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。以上で終わります。

○議長（能登谷正人君） これをもって宮本雅晴君の質問は終わりました。

これをもって通告の質問は全部終わりました。一般質問を終結いたします。

◎ 休会の議決

○議長（能登谷正人君） 以上で、本日の議事日程は全部終了いたしました。

お諮りいたします。3月11日に設置されました予算特別委員会における付託議案審査のため、3月14日から18日までは休会することにいたしたいと思いを。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（能登谷正人君） ご異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。

◎ 散会宣告

○議長（能登谷正人君） 本日はこれをもって散会いたします。

次の会議は、19日午前10時の開議を予定いたします。

[散会 午後 1時28分]

上記会議の記録に相違ないことを証するため、ここに署名する。

議 長 能登谷 正 人

署 名 議 員 赤 井 睦 美

署 名 議 員 大久保 建 一

